

# あいさつの見返り？

これまでHPの記事の中で、二回程度、『あいさつ』に関わることを書いた覚えがあります。今回、三回目を書こうと思ったのは、『あいさつ』に対する意識について考えるところがあったからです。

まずは、今年度の状況について。一番象徴的な場面のことを記します。昨年度末、三年生が卒業して、毎日一緒に立っている、元高校の先生としみじみ、徒歩通学者の激減ぶりを話していました。それが今年度、新たな新入生を迎え、徒歩通学者の数が昨年度以上に激増しました。さらに、昨年度までには見られない姿があります。それは、一年生の大集団での登校です。小集団が登校途中に合流し、大きな集団を形成しているようです。これまでは、一人ないしは二、三人の登校風景がほとんどでした。それが十名を超える元気な集団が出現しました。元気な挨拶は、相手も元気になります。「一日頑張ろう！」という思いをもつこともできます。

「おはようございます。」のたった一言で、一瞬のコミュニケーションですが、そのもつ意味や効果はとも大きいと言えます。だから私は、全員に届くように意識して挨拶を交わしています。

その逆もあります。日常の中で挨拶をしても返ってこなかった、という経験は誰にでもあると思います。私も勿論あります。

「せっかく自分からしたのに・・・。」「大人が挨拶をするように、と言っているのにおかしい。」といった腹立たしさや苛立ちを感じたこともあるのではないのでしょうか。その思いはよくわかります。

ただ、状況によっては、すぐに対応できないこともあります。対応できない・気付けられない状況や心持ちであることも考えられます。

心理カウンセラーの話によると、自分から挨拶ができない人、挨拶をされてもしない人の心理として以下のようなことが挙げられるそうです。

自分から挨拶ができない人

挨拶をされてもしない人

◇周囲との関係が不安

◇自分の世界に没頭したい

◇過去にトラウマがある

◇挨拶する必要がない

◇恥ずかしい

◇ただ単に嫌い

◇大切さを理解していない

◇イライラしている

誰もあいさつの見返りを求めているわけではありません。一瞬のコミュニケーションを大切にしているからこそ、挨拶が返ってこなかったとき、残念な想いや腹立たしさをもつのです。しかし、その後、相手に合わせて当の本人も挨拶をしなくなってしまうとしたら、その後、関係性を築くことは難しくなります。

自ら『挨拶をする』だけでなく、相手と『挨拶を交わす』ことがお互いにとって一番よいことですが、人の立場・状況は当人しかわかりません。あいさつの見返りは求めず、まずは自分が『挨拶をする』ことをこれからも大切にしていきたいと思えます。